神楽坂 2013年版

古き良き江戸情緒と話題の新店が
溶け合う街、神楽坂。
散策スポットや界隈のお店を
紹介するこのマップで、
素敵なひと時をお楽しみください。

店名は各店舗の業種別に以下の通り色分けしてあります。
物販：黒　飲食：茶　料亭：紫　サービス・その他：緑

階段　WC 公衆トイレ
石畳の散策路　P 駐車場

赤城神社

かつてこの地を治めていた牛込氏ゆかりの神社。江戸時代には幕府より「江戸大社」と称され当時の最高社格を拝戴しました。また明治時代には坪内逍遥らの文豪が会合を開いた貸席がありました。

光照寺

中世期にこの地を治めていた豪族・牛込氏の城跡です。本堂脇に枝垂れ桃、墓地の奥には2本の桜の名木があります。また、旅の途中で亡くなった人を供養する「諸国旅人供養碑」、江戸時代の狂歌師・便々館湖鯉鮒の墓などがあります。いずれも墓地内ですので、マナー良くご鑑賞下さい。本堂には、区有形文化財の「地蔵菩薩坐像」、「十一面観音坐像」が安置されています（非公開）。毎年、大晦日には、再建された釣鐘の音が神楽坂に響きます。

毘沙門天善國寺

神楽坂の中央にある日蓮宗のお寺。400年以上前に創建され、神楽坂に移ってからも200年以上経ちます。安置されている毘沙門天像（区指定文化財）にちなみ、地元では「毘沙門様」と呼ばれています。毘沙門天は、天の四方のうち北を守るインドの神様で、多くの願いを叶えてくれる「多聞天」です。トラの化身とされており、通常の「狛犬」の代わりに、ここでは「トラ」の像が安置されています。初詣、節分、花見、ほおずき市、阿波踊り、ほうろく灸、まち飛びフェスタ、お会式など、多くの行事が行われます。新宿周辺にかけて七つの寺社をめぐる「山の手七福神」のひとつでもあります。

神楽坂若宮八幡神社

源頼朝建立の神社で、1999年に現在の形になりました。社殿の向きは、江戸城を守る意味を持つ方角にあります。境内には昔からの井戸が残されています。毎年12月の第一日曜日に、となりの若宮公園で行われる「花市」はすっかりお馴染みとなりました。

東京理科大学 近代科学資料館

明治時代の物理学校校舎の外観を復元した資料館。エジソン蓄音器の音色を聴き、大正時代の手回し計算機をお楽しみください。日本一の計算機のコレクションは必見です。（日・月・祝祭・その他理科大の休校日は閉館　入場無料）

神楽坂界隈で桜めぐり

春になれば、毘沙門天善國寺の桜や、筑土八幡神社の桜のトンネルが皆さんをお迎えします。外堀を囲む桜の景色も見事ですし、さらに桜の名所である千鳥ヶ淵や靖国神社までも元気な方なら歩いて10～15分という近さです。

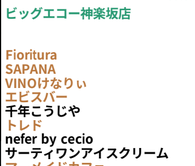
一年を通して楽しんでいただける神楽坂ですが、桜の季節はまた格別！　ぜひお誘いあわせの上、春の一日を神楽坂周辺の桜めぐりでお楽しみください。

▲ライトアップされる千鳥ヶ淵の桜

▲外堀を取り囲む桜も見事です

▲桜の花が春の毘沙門天を彩ります

牛込見附跡

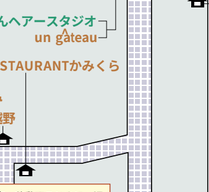


1636年（寛永13年）に築造された江戸城の門のひとつで、現在は石垣の一部が残っています。工事を担当したのが徳島藩の蜂須賀候。神楽坂では夏に阿波踊りが行われており、縁を感じさせます。

行元寺の一角

明治時代まで行元寺（行願寺）という大きなお寺があったため、この一帯は寺内・地内（じない）と呼ばれています。参道の左右には商店が並び、江戸時代には岡場所（無許可の遊女屋営業地域）もありましたが、寛政の改革で禁止された後、料理屋や芸妓屋が数多くできました。神楽坂花柳界の始まりはこの門前から、と言われています。

兵庫横丁

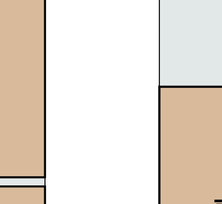


石畳・黒塀・見越しの木々と、もっとも神楽坂らしい一角。「兵庫」の名は、中世期にこの辺りが武器・兵器に関係する郭だったことから来ています。

「鎌倉古道」の跡

この道は鎌倉時代からあり、当時、国府のあった場所を結ぶ重要道路の一部でした。

筑土八幡神社



境内には新宿区の有形民俗文化財の「庚申塔」や、「はなさかじじい」、「牛若丸」などの作曲家「田村虎蔵をたたえる碑」があります。境内に登る石段は、春には桜でおおわれ、花のトンネルを作ります。

神楽坂の持つ「伝統と進取の心」を象徴する横丁。

石畳の奥には、町屋造りの落ち着いた酒亭と、テラス席をもつクレープ料理店が向かい合って営業しています。

かつて旗本・本多対馬守の屋敷があったことから名が付きました。

多くの飲食店や専門店が並ぶ、神楽坂を代表する横丁。道路整備も終了し、さらに活気あふれる通りになりました。

芸者さんが料亭から料亭へ移動するときに、混雑する表通りを避け、抜け道として使ったことから名が付いた、石畳の小道。もちろん今でもばったり出会えることがありますよ。

神楽坂の路地

飲食店が多い横丁。芸者新道やかくれんぼ横丁へ通じている。

小さな飲食店が密集する一角。ここに馴染みの店があるようなら、まさに「神楽坂通」。

路地歩きで神楽坂を堪能

神楽坂にはかつての面影が残る路地、新しい店で活気溢れる横丁など、魅力的な横道がたくさんあります。石畳や黒塀があったり、階段が現れたり、意外な出会いも魅力です。

横丁や路地は、住んでいる方たちの生活の場です。散策はマナー良くお楽しみいただけますよう、ご協力をお願いいたします。

軽子坂

明暦の大火後、徳川幕府によって坂下に舟から荷を揚げる川港が造られました。当時、神楽坂が今より急峻であったため、この坂を利用して物資を坂上地区に運んでいました。この付近に、縄で編んだ「軽籠」による運搬作業に携わった人足が多く居たことからこの名が付きました。

神楽坂まめ知識

【神楽坂の始まり】
今の神楽坂通りがそれらしくなったのは、江戸時代と言われています。寛永5年（1633年）に大老酒井氏が矢来に屋敷地を拝領。その後、大老の登城道路として整備が進み、今の神楽坂の原型ができたそうです。

【神楽坂の名の由来】
この坂で、神社が奏でる神楽の音が聞こえたことに由来します。どこの神社の神楽なのかは、若宮八幡神社、筑土八幡神社、その他諸説あり定かではありません。

【神楽坂の老舗】
江戸時代創業の店も数店ありますし、明治・大正時代からの店は10店以上あります。建物は改築しているので難しいかもしれませんが、名前や雰囲気を手掛かりに探してみてください。

庚嶺坂

庚嶺坂（ゆれいざか）は、徳川家二代将軍・秀忠の時代、ここに広い梅林があり、中国の梅の名所「大庚嶺」にちなんで名付けられた急坂です。

熱海湯階段

熱海湯の脇にある石段です。テレビドラマ「拝啓、父上様」でリンゴが転がった階段はここです。

小栗通り

小さな飲食店が並ぶ横丁です。中ほどに銭湯があることから「熱海湯の通り」と呼ばれることもあります。「小栗」は、かつてこの通りに屋敷があった武士の名です。

神楽坂界隈マップ

神楽坂マップ

2013年（平成25年）3月6日　第6号
定価200円

配布店

編集発行　神楽坂通り商店会
Tel.03-3268-2802
東京都新宿区神楽坂3-2　ベスト神楽坂ビル6F
制作　渡辺幸雄（beans）
デザイン　HC E&D
印刷　(株)クリード

神楽坂通り商店会についてはホームページでもご案内しております。
●神楽坂通り商店会 PC用ホームページ
http://kagurazaka.in

マップ内の歴史にまつわる解説は、新宿区郷土研究会発行「神楽坂界隈」（1997年）と2004年に郷土研究会 水野正雄会長に伺った話を参考にまとめました。

●本紙はリサイクル運動推進のため再生紙を使用しております。